

英 語

1 学習評価の改善・充実

専門教科「英語」においては、「話すこと」、「書くこと」における発信力の強化や、高校卒業後の進路の多様化などに対応するため、より高度で専門的な科目として「総合英語 I・II・III」、「ディベート・ディスカッション I・II」、「エッセイライティング I・II」が設定されている。

学習評価の基本的な考え方については、教科「外国語」を参照願う。ここでは、「総合英語 I」における、指導と評価の計画の具体例を次に示す。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

総合英語 I における「話すこと[やり取り]」の指導と評価

ここでは、主に「話すこと [やり取り]」の言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」の評価を重点的に行う具体的な実践例を示す。なお、1つの単元で必ずしも五つの領域の全てについて評価するのではなく、年間を通してバランスよく指導され、評価されることを前提としている。

○ 単元名「意見を論理の構成や展開を工夫して話して伝え合う」

(1) 単元の目標

日常的な話題や社会的な話題について、必要に応じて、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が示される状況で、対話や説明などを聞いたり読んだりして、賛成や反対の立場から、論理構成や展開を工夫して意見を話して伝え合うことができる。

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・賛成・反対の意見を、論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うために必要となる表現を理解している。 ・日常的な話題や社会的な話題について、賛成・反対の意見を論理の構成を工夫しながら話して伝え合う技能を身に付けている。	・自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題について、対話や説明などを聞いたり読んだりして、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫しながら話して伝え合っている。	・自分の意見を、相手によりよく理解してもらえるように、日常的な話題や社会的な話題について、対話や説明などを聞いたり読んだりして、相手の意見に応じて、賛成・反対の意見を論理の構成や展開を工夫しながら話して伝え合おうとしている。

(3) 「話すこと [やりとり]」の指導事例（複数単元）

本事例では、2(1)で示した目標を達成するために、年間（複数単元）を通して各単元の学習内容と関連させながら、「話すこと[やり取り]」の指導と評価を行う。

ア 年間を通して本事例を行う目的

論理的に自分の意見を組み立てて書いたり発表したりする力、相手の発表を聞いてメモを取る力、メモを基に要約して話す力、相手の意見に対して即興で自分の意見や質疑応答する力など、ディベートにつながる力を授業で段階的に身に付けるようにする。

イ 本事例の年間指導計画の概要

この例では、別の時期に行う単元との関連性を考慮して、学期又は年間を通じて継続的に指導と評価を行うこととしている。

学期	前期			後期		
帯活動	■主に日常的な話題（自分のこと、身の回りのこと、教科書の題材等） ①スモールトーク ②立論→反論（アタック）			■主に社会的な話題（教科書の題材と関連した時事的な題材等） ①スモールトーク ②立論→反論（アタック）		
週1回の活動（ALT）	(1)立論を聞いて、メモを取ってまとめる。	(2)同じ意見の人とペア等になり、意見を共有して考えを深め、メモをもとに話す。	(3)異なる立場の立論を聞いてメモを取り、ポイントをまとめて話す。	(4)Triangle debate ・3人1組で立論への反論を繰り返す。	(5)ディベート活動 ・2人1組 ・立論→反論	(6)ディベート活動 ・肯定側・否定側・ジャッジの3人1組で反論を行う。

ウ ディベートにつなげる言語活動の例

生徒が論理性に注意して自分の意見を話して伝え合うことができるようになるために、各学校の実態に応じて、必要な支援を行った上で、多様な言語活動を行いながら段階的に指導することが大切である。言語活動の例としては、次のようなものが考えられる。

<p>スモールトーク</p> <p>単元に関連するトピック等について、ペアやグループで「話すこと [やり取り]」を即興で行う活動。</p>	<p>リスニング・ノートテイキング・サマリー</p> <p>話された内容についてメモを取り、ペアやグループで復元していく活動。</p>	<p>ライティング（立論・反論）</p> <p>教科書で学んだ題材等について自分の意見や考えをまとめて書いたり、ある意見に対し理由とともに反対の意見を書いたりする活動。</p>	<p>簡易ディベート</p> <p>肯定側・否定側各1名ずつとし、立論に対する反論（アタック）を1回ずつ実施する活動。</p>
--	--	---	--

エ 簡易ディベートの具体的な流れ

Stage	
①	肯定側立論 Affirmative Constructive Speech (1 min.) “We will now begin the debate with the Affirmative Constructive Speech for 1 minute.” ～立論～ “Thank you.”
②	否定側立論 Negative Constructive Speech (1 min.) “We will now hear the Negative Constructive Speech for 1 minute.” ～立論～ “Thank you.”
準備時間 Preparation time (1 min.) “We will now have a 1 minute preparation time.” “Preparation time has ended.”	
③	否定側反論（アタック） Negative Attack (1 min.) “We will now hear the Negative Attack Speech for 1 minute.” ～反論～ “You said that ～, however it is not (true / important / effective) because...” “Thank you.”
④	肯定側反論（アタック） Affirmative Attack (1 min.) We will now hear the Affirmative Attack Speech for 1 minute.” ～反論～ “You said that ～, however it is not (true / important / effective) because...” “Thank you.”

簡易ディベートを通して深まった自分の考えを論理性に注意して文章にまとめさせるなど、まとまった文章を書く活動につなげることも考えられる。

(4) 評価問題等

ア パフォーマンステスト

日常的な話題や社会的な話題について、相手の意見に対して反論した上で、自分の意見を適切な理由や根拠とともに述べる。

論題：“High school students shouldn't have part-time jobs.”

イ 実施の方法

- (ア) 教員・ALTをジャッジに見立てて、簡易ディベートを実施する。
- (イ) 授業で扱った論題を三つ程度用意し、その中から一つを選んで提示する。
- (ウ) 立論は評価者である教員・ALTが提示する。
- (エ) 評価の場面は、「相手の立論に対する反論（アタック）」とする。
- (オ) JTEとALTが分担してテストを実施する。

ウ 採点の基準

- 「思考・判断・表現」についての三つの条件

条件1：相手の立論を理解し、論点を整理（要約）して述べるができること。
 条件2：相手の立論の論点を受けて、自らの反論を一つ述べていること。
 条件3：自らの反論を裏付ける例や説明が一つ示されていること。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	<ul style="list-style-type: none"> ・立論に対し、語彙・表現を適切に使って反論している。 ・聞き手に分かりやすい論理的な構成や音声等で立論に対して反論している。 	三つの条件を満たした上で、関連した情報や考えなどを適切かつ論理的に話して伝え合うやり取りをしている。	三つの条件を満たした上で、関連した情報や考えなどを適切かつ論理的に話して伝え合うやり取りをしようとしている。
b	<ul style="list-style-type: none"> ・立論に対し、多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語彙・表現を使って反論している。 ・多少分かりづらい点はあるが、立論に対して聞き手が理解できる構成や音声等で反論している。 	三つの条件を満たして話して伝え合うやり取りをしている。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-top: 5px;"> この例では、ディベートにおける、反論（アタック）に重点を置いた採点の基準を設定している。 </div>	三つの条件を満たして話して伝え合うやり取りをしようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

エ 生徒の発話と採点の結果の例

【教員：肯定側立論】

I think that high school students shouldn't have part-time jobs. This is because students should concentrate on schoolwork. During their high school years, they should study as much as they can, because after they graduate, they won't have much time to study.

【生徒A：否定側反論】

条件1

① You said that students should focus more on schoolwork because they won't

条件2
条件3

have much time to study. ② However, it is not true because many of high school students in Japan go to university. ③ So, they have much time to study even after graduating from high school. ④ For this reason, I don't think that high school students shouldn't have part-time jobs.

※「ウ 採点の基準」に沿って、全ての観点で「a」と評価した。

採点基準により、④の結論部
はここでは評価しないことと
している。

【生徒B：否定側反論】

① I believe that it's good for students to have part-time jobs. ② Part-time jobs can give them a chance to think about their future jobs. ③ They may realize the types of work they are good at. ④ This will help them when they look for a full-time job in the future. ⑤ For this reason, I think it's good for students to have part-time jobs.

※「ウ 採点の基準」に沿って全ての観点で「c」と評価した。

採点基準により、肯定側立論
に対する反論になっていな
いと評価した。

【教員：否定側立論】

I think that it is good for students to have part-time jobs. There is a good point about working part-time. This is because students can experience things that they can't learn at school by working. For example, they may learn how to communicate with adults and how to speak politely.

【生徒C：肯定側反論】

条件1

① You said that students can experience things that they can't learn at school. ② For example, speak with adults. ③ But, it is not true because students can speak with teachers. ④ Of course, teacher is adult.

条件2

※「ウ 採点の基準」に沿って、全ての観点で「b」と評価した。

条件3

採点基準により、多少の誤
りや分かりづらさを含んで
いると評価した。

オ 「話すこと [やり取り]」の指導と評価におけるICT活用の例

「話すこと [やり取り]」の指導と評価をする際、ICTを効果的に使って工夫・改善を図る例として、次のようなものが考えられる。

ALTによる立論のモデルを音声で配信し、生徒は立論の要旨を聞き取ってメモにまとめたり、反論を行ったりするなど練習に活用する。

立論と反論のやり取りの練習の様子を動画等に記録し、生徒同士で採点の基準に沿って振り返りをさせたり、モデルとなるやり取りを全体で共有する。

生徒の練習の様子を記録した動画等を複数の教員で視聴し、評価基準の確認をしたり、改善点を伝える等の生徒へのフィードバックにつなげたりする。

生徒がパフォーマンスを録画し、教員（評価者）にデータで提出する。教員は提出された動画を「採点の基準」に照らして事後に評価する。

【参考資料】YouTube nextchannel

○高等学校：言語活動編

「話すこと [やり取り]」のほかにも多くの事例が紹介されており、言語活動に関わる課題解決に活用することができる。



ディベートで思考力・判断力・表現力を培い評価する英語の授業



英語ディベートで生徒が変わる



英語ディベートに向けた段階的な指導